

ね お 合 歡 の 木

発行 内灘町ボランティアセンター

TEL 076(286)6953

<http://www2.spacelan.ne.jp/~uchisyakyo/>



ボランティアの広場



「ボランティアルームに寄せて」

内灘町ボランティアセンター

所 長 七 田 稔



今年の4月に内灘町文化会館1階にボランティアルームが設置されました。入口に案内板があるので、会館を訪れた方は直ぐ気付かれると思います。ボランティアルームは、ボランティアの会合や連絡あるいは活動の情報発信の場所として、行政の協力により実現したものです。ルーム内には、活動のためにパソコン等事務機器を用意しました。利用方法は、ルーム内の掲示板や社協のホームページに掲載しました。是非ご利用下さい。

さて、ボランティア活動は、自発的な意志のもと自分の特技や空時間を生かし、人の為あるいは社会の為に活動するものです。しかし一方では、ボランティア活動が広まり、社会的な影響力が大きくなった中で、今日、行政からはまちづくり（地域づくり）のために連携・協働が求められるようになりました。経済的、社会的に持続可能な地域づくりは町の重要課題ですが、1992年、ブラジルで開催された地球サミットを中心テーマであり、各国、各地で取り組まれている現代の世界的な課題でもあります。

身近な手助けから、まちの課題解決にいたるまで、ボランティア活動のあり方は様々であると思われますが、ボランティアルームが、ふれあい、集い、学び、そして参画、活動するうえでの拠点となってボランティア活動に役立つことを願うものです。



4月に設置されたボランティアルーム

■内灘町赤十字奉仕団委員長

西田 恭子さん (鶴が丘)

発災直後に作動した赤十字無線奉仕団との連携で、現地の道路及び避難所の状況を収集し、門前西小学校を拠点に昼食一日400食の炊き出しを決定しました。刻々と変わるニーズに合わせ、暖かいうどんやつみれ汁、冷えた配食のご飯をおじやにと、野菜をたっぷり加えた炊き出しは、高齢の方が多地域では喜んでいただきました。避難されている方には思わぬ雪が降るなど天候の激変と、疲労に加え風邪やノロウイルスなど二次的追い討ちを受ける苦痛を目のあたりにし災害の悲惨さを思い知りました。今後は一日も早く復興する様、募金活動の協力、高齢者施設への奉仕が我々に出来る支援の一つかと思っています。



◀ボランティアセンター前で受け付けをするボランティアの皆さん

■桜谷 朱美さん (アカシア)

今回の災害で、微力ながら炊き出しのお手伝いが出来た事がよかったと思っています。地震の後片付けに、たくさんの若いボランティアの人たちが駆けつけていらっしゃる姿に胸が熱くなりました。日本でもボランティア精神が確実に根付いてきている事に大変うれしく思いました。今回は、多くのボランティアの炊き出しがあり重なり合わないようにならないものかな？と残念に思いました。

“能登はやさしや土までも”一日も早い復興を願ってやみません。

～内灘町赤十字奉仕団に聞く～

■荒谷 小枝子さん (室)

災害のニュースを聞き、何かお手伝いをしなくてはと思いながら、どうしたら良いかわからないまま日々を過ごしていた時、ボランティアのお誘いを受けました。

それからが大変、現地の様子がわからない。まだまだ寒い日もある、小雪の降る時もある。カイロ、雨合羽、ウエストポシェット等準備し、長靴か運動靴かと考える。もし道中余震のため通行止めになったら予定通り帰宅できないかもとコートも持った。何があるかわからない、保険証も持って行こう。頭の中であれもこれも考えてしまい眠れないまま朝5時におにぎりとお水を持参し出発しました。思っていたより道路は復旧が進み、予定通り現地に着きました。しかし現地に近づくにつれ至る所で道路に亀裂が入り補修されているものの大きな段差もあり、倒れた家や屋根にブルーシートがかけられて自衛隊の車が何台も停まっていた。テレビで見るより言葉では言えない光景に、初めて災害の大きさを感じました。炊き出しのボランティアに参加しましたが、どうにか自宅に住んではいても器がなくてピンを持って来た方がいました。その家の中の様子が思われ胸が熱くなりました。災害に遭った方には申し訳ないことですが、最大の不幸を目の前にみて人間って本当に素晴らしいと思いました。

人として生まれ、人は皆こうして助け合って支え合ってそして感謝する。現地で目にした光景、また経験、人の出会い、私の人生に何時までも忘れられない思い出となりました。本当に参加できた事に心から感謝します。最後に被害に会われた皆さんの一日も早い復興を願って、心から祈らずにはいません。

「災害ボランティアセンターでの活動を通して」

内灘町社会福祉協議会
ボランティアコーディネーター

藤田 徹

平成19年3月25日に発生した震度6強の能登半島地震により、輪島市 門前町と穴水町に災害ボランティアセンターが立ち上がりました。

私たちは3月30日から4月1日まで現地に入りボランティアコーディネーター活動を行いました。毎日、多くのボランティアが駆けつける姿をみて、ボランティアはもう特別なものではないことを実感しました。この経験を活かし、災害時にはボランティアのみなさんのご協力を頂きながら、万が一に備え社会福祉協議会としてできることを一つ一つ行っていきたいと思っています。

最後に能登半島の1日も早い復興を願っています。

“こんな人 みい～つけた!”

～ねむの木レポート～

「音楽とともに出会い・つながり」 矢代さん（大根布）

8年前に音楽療法に出会った矢代瑞穂さん、音楽を通して高齢者の皆さんが思い出の時、なつかしい瞬間を回想し、脳が活性化する手助けをしています。

矢代さん自身が音楽療法で元気付けられることがあり、「これだ!」と夕陽ヶ丘苑に飛び込んでボランティアを始めて7年、仕事の合間をぬっていくつもの施設に出向きます。

わらべうた、童謡、歌謡曲、そして軍歌などで高齢者の方の思い出が甦ってくると元気になる、回想がひろがり、「息子に歌った!」「だんなさんと一緒に歌った!」と昔を語られるそうです。

大きな紙に歌詞を書いて持って行き、みんなが顔を上げて歌えるように工夫し、ボールや鈴を使ったり、手遊びも加えます。時々子ども達も一緒に訪問しピアノを演奏し、交流も取り入れています。

これまで生きてこられたそれぞれの人生では、馴染んだ音楽も文化も違いますがそこには何か共通のものがああり、音楽を提供することによってそれらを引き出していきたいそうです。心丈夫なことに音楽が大好きな矢代さんのお母さん、双千子（ふじこ）さんがアシスタントでいつも一緒です。

出会いがあり、人と人とのつながりがあり、親孝行も出来て、実は自分自身が一番癒され元気をもらえるので、ずーっと続けたいと語る矢代さんでした。

（多田 記）



子供たちと一緒に訪問（右が矢代さん）

「愛されて育ててもらったお返しができれば」 横田さん（向栗崎）

横田ふみ子さんは、内灘に来て地域の人達と馴染んでいくために、平成6年に日赤奉仕団へ入り、ボランティア活動の基本を学ばれ、それ以来奉仕団の中でいろいろなボランティアに従事されました。

平成10年からは、委員長として内外共にボランティア活動の先頭に立たれ、内灘町に特別養護老人ホーム「夕陽ヶ丘苑」ができると同時に、委員長を譲り、デイサービスにおいて、昔とった杵柄と「生け花」と「俳句」の教室を担当されて今日に至っています。

夕陽ヶ丘苑では年齢差のない方々との触れあいの中、違和感もなく融和でき、横田さん自身も楽しみながら勉強もさせて頂いているとおっしゃいます。そして一方通行にならないよう、できるだけ苗字で呼ばれ、又、楽しく興味を持ってもらえるよう配慮されているそうです。

教室の終わりには“また会う日を元気で”との気持ちを込めて『今日の日はさようなら』をみんなでうたいます。「大切に育ててもらったので少しでもお返しできれば・・・」とおっしゃる横田さんは、元気で明るく前向きで、周りを引き込んでしまします。

平成15年3月俳句教室で、90歳の山田さんが初めてつくられた句です。

「日本晴れ ぜんまいとりに いきたいな」

（安田 記）



生花教室の横田さん



※今回は下記の4つのサロンを紹介します。

◆サロン「いいね向陽」

2/20(火)、内灘町では8つめのふれあいいきいきサロン「いいね向陽」が、向陽台公民館で立ち上がりました。

第1回目では、講演「高齢者の防犯について(津幡署 松沢茂雄生活安全係長)」を通して、みんなでどのように被害を未然に防いでいくかを話し合い、「健康体操」では、椅子に座りながらできる体操などとして、体もリラックスしました。毎月1回、第3火曜日午前10時から。

向陽台地区

◆サロン「鶴西」

毎月1回、第1金曜午前10時から鶴ヶ丘西公民館で開催しています。

ひな祭りではみんながグループ毎にその場で新聞紙や広告チラシを使い1時間ほどで着物を作りました。じゃんけんで負けた人がおひな様になりました！

鶴西地区

如何でしょうか？
ジャンケンで
モデルとなりました



健康維持して
被害を未然に
防ぎましょう

ふれあいいきいきサロン

健康勉強会

今年度4月より、各サロンの健康に関心がある方々が定期的に集まり、「ふれあいいきいきサロン健康勉強会」を開催することになりました。

地域包括支援センター(役場2F)の協力により、健康に関する情報交換や勉強を行い、学んだことを各サロンに持ち帰り、安心して健康で過ごすことができればと思っています。



◆サロン「ひまわり」

毎月1回、第4金曜日、午前10時30分から大根布公民館で開催しています。

銭太鼓を楽しんだり牛乳パックで椅子作りをしたり、お茶の作法を学んだり、また、大根布保育園の園児達と一緒に踊ったりしています。

◆サロン「みどり」

毎月第2火曜日午前10時から緑台公民館で開催。

天気が良い日には、緑台遊歩道をゆっくりと散歩しながら草花を楽しみ、時にはタウンミーティングをして、自分達の町についてみんなで考えたり、楽しく語り合い集える場を目指しています。

緑台地区

大根布地区



とても難しい
クズ玉作り！
なかなか玉に
ならないのよ！

牛乳パックで
スツール
(椅子)作り！

すわっても
大丈夫かな？



◇内灘中学校図書ボランティア募集しています！

内灘中学校の生徒を見守りつつ、本の整理、手入れ、ラベル貼り、おはなし会の手伝いなどをしています。年齢・男女問いません。月に一度でも一時間でも子ども達に本とふれ合うきっかけ作りのお手伝いをして下さる方お待ちしております。

■連絡先: 内灘町立内灘中学校 Tel.286-0017
図書館担当 上田秀樹

◇運転ボランティア募集しています！

内灘町社会福祉協議会では、日常的に車イスを利用しての方に車イス対応型車両を貸出しています。車イスの方がこのサービスを利用して外出するためには、運転ボランティアの協力が必要です。資格は普通免許と年齢(70歳未満)と気持ちです！あいている時間、月1~2時間をお貸しください。お待ちしております。

■申込み・問合せ 社会福祉法人 内灘町社会福祉協議会

募集します

ほほえみ

(編集後記)

3月、ボランティア研修で富山の「イタズラ村・子ども遊ばせ隊」を訪ねました。

はじめは当惑顔だった参加者もいつの間にかすっかり童心に帰り「血まわし」に興じ、しかけおもちゃにハマりました。遊びこそ元気の素。心も体も満足。子どもにもおとなにも伝えたーい！ (長尾 記)



各ボランティア活動への参加、行事への参加のお問合せ、お申し込みは内灘町ボランティアセンターまで(保健センター内)

TEL 076 (286) 6953